

2025 年度 自己評価報告書

学校法人北海道カトリック学園 認定こども園 小樽藤幼稚園

1 本年度の重点目標

(教育目標)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～うつくしく やさしく しなやかに～」

1. キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供はかけがえのない神の似姿であることから、人格の基礎作りに重点を置いて教育を行います。
2. 人間を超えた御者に対する畏敬の念・他人を思いやる優しい心・許す心・感謝する心を育てます。
3. 一人ひとりの持っている可能性を开花させ、調和のとれた豊かな人格の成長を援助します。

2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ6段階とする。

- A → 十分達成されている。
- A⁻ → 概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
- B⁺ → 若干上回って達成されている。
- B → 達成されている。
- B⁻ → 概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
- C → 取り組まれているが、成果が十分でない。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	<p>1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。</p> <p>2 幼稚園教育要領を理解し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導をおこなっている。</p> <p>3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。</p>	B ⁺	<p>カトリック園の基盤は変わらないが、神さまについて話す機会が減ってきていると感じている職員もいる。</p> <p>宗教色ということではなく、日々の保育の中で神さまに見守られているということを丁寧に伝えていく。</p> <p>また、保育の内容について色々な意見が出た1年だった。切磋琢磨をしながら質を高めたい。</p> <p>年間行事に関しては、クリスマス遊戯会を全園児開催にし、年齢に応じた成長を見ることに、保護者からの賛同も多かった。秋の長雨で園外の機会が減ってしまったが、工夫しながら園外の機会を作っている職員の姿があった。</p>

<p>研修 (資質向上の取組み)</p>	<p>園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。</p>	<p>B⁺</p>	<p>研修を受け学ぶという姿勢は定着してきたが、これからは何を学びたいかをそれぞれが明確にしていくことが必要。 園内研修も実施でき、今の園としての課題を取り上げ充実させていけたら良いと思う</p>
<p>教育目標・学校評価</p>	<p>1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。 2 家庭での生活体験に配慮し、園児の自立心を育て、他の園児と関わりながら生活に必要な習慣を身に付け、見通しを持って行動できるようにしている。 3 園に対する保護者からの意見・要望については適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。</p>	<p>A⁻</p>	<p>教職員による自己評価については、毎年年度末に実施、掲示板とホームページにて公表している。 認定こども園として2年目、職員もシフトの動きや、欠勤職員やパート職員の休憩時間の代替に慣れて動くことが出来るようになってきた。担任が居なくても、保護者との連絡に漏れがないか、全体で子どもたちのことを共有できる体制を維持していく。</p>
<p>情報提供</p>	<p>1 園児の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。 2 園だよりやキッズリー、ホームページ、Instagram、教育・保育活動、その他の学校運営の状況について積極的な情報提供に努めている。</p>	<p>A</p>	<p>個人情報については、園としての情報漏洩がないよう、また個人の意見に即して、慎重に配慮して対応している。 次年度は新しいアプリの導入により、保護者連絡や登降園管理を ICT 化していく。対面の良さは残しつつ、活かせる機能は利用していきたい。</p>
<p>保護者・地域との連携</p>	<p>1 父母の会との懇談やクラス毎の交流などを通じ、保護者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。 2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。</p>	<p>A⁻</p>	<p>父母の会主催で昨年同様、ハロウィンやお正月会の品物づくり、またサマーフェスティバルの品物づくりにも協力していただき感謝している。 日本丸の見学や、JR、路線バスを利用した園外保育はとても貴重な機会となった。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>園児の心身の健康と発達状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。</p>	<p>A⁻</p>	<p>未就園児の母子同伴クラスは10名程度の登録者で内容も充実してきた。 保護者との関わりは、それぞれの職員が丁寧に関わり、職員全体でも話し合いながら情報の共有が出来ている。一人ひとりの心の声に向き合う姿勢を大切にしたい。</p>
<p>保健管理</p>	<p>1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携の上実施している。 2 日常の健康観察や疾病予防の取り組みのほか健康診断を定期的に行っている。</p>	<p>A⁻</p>	<p>家庭での検温表、昼食時の検温は継続。園で排便をしたときの状態も体調変化の要因となることがあり、留意していく。 今年度も大きな感染症の拡大は無かったが、感染症の発生状況は保護者に丁寧に周知し(罹患者が悪いという感覚にならないように)、疑いのある症状のある時は受診を推奨し、集団生活での拡大の防止に努めていく。</p>

安全管理	<p>1 安全計画や防災計画を策定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。</p> <p>2 安全計画等、各種マニュアルが整備され、職員に周知している。</p>	B ⁺	<p>毎月の避難訓練が定着し、2階の滑り台からの避難、防災頭巾の着用、不審者訓練、冬期のスキーウェア着用避難など、様々な形での避難訓練の中で新たな課題も見られている。今後も、対策を積み重ねていきたい。園周辺の危険箇所や園内のヒヤリハットを職員で話し合い、園庭遊びの配置を見直した。職員のさらなる意識向上が望まれる。</p>
特別支援教育	<p>家庭との連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。</p> <p>療育機関と連携し、保育所等訪問支援の受け入れ、そして園側からも療育機関の訪問を積極的に行っている。</p>	A ⁻	<p>園児一人ひとりの状況を把握し、保護者の理解や全教職員による共通理解のもと、指導計画に沿って教育活動を実施している。担任が地域の関係者との連携を進めている段階で、次年度も子どもの育ちに繋がるよう努めたい。</p>
組織運営	<p>1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。</p> <p>2 園児等の個人情報の取り扱いと管理については、適正におこなっており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。</p> <p>3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。</p>	A ⁻	<p>園長・主任の不在時にも変わらず園が機能するように、保育リーダーの存在を意識付けしていく。特に危機管理、安全管理には誰でも最低限の対応がとれるよう、一人ひとりがそれぞれの役割の中で動くことを目標にする。質の向上に努め個人情報の取り扱いには引き続き細心の注意を払っていく。就業規則に関する法令等の順守については、シフトで動くこと、有休の適切かつ平等な取得、自己管理を認識しながら、働きやすい職場環境づくりを進めていく。</p>
預かり保育	<p>認定こども園として、1号認定児、2号認定児の保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。</p>	A ⁻	<p>こども園としての役割を踏まえ、預かり保育の時間帯が大切になっている。専属の職員のもと、環境や保育内容も整ってきた。長時間利用の園児も多くなってきている。午睡を適宜に取り、体調の変化や怪我には十分配慮していく。低年齢児の利用が増えているため、職員の配置や長期休みの運営に工夫が必要である。</p>
教育環境整備	<p>園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。また主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを活かした環境に配慮している。</p>	B ⁺	<p>エアコンや耐震化などのハード面は整ってきた。今後は園舎の細かい修繕も必要になってくると思う。</p> <p>保育の内容についての話し合いを活発化し、今までの環境構成の見直しや子どもにとって居心地の良い環境作りについて考えていきたい。</p>

4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A-	<p>今年度は学校法人内の異動で経験のある職員が加わり、主任教諭の役割が明確化し組織的にも充実した。7月から11月までは耐震補強工事を行い、現行の耐震基準に即した安全な園舎となった。利用定員では2号認定児の需要が多く、次年度から10名→15名に変更する。利用定員に見合った適正な経営が出来るように進める。今の特徴として、年度途中で入園者を迎えていくので、常に落ちついた雰囲気の中で保育を進めることが出来る。</p> <p>長時間保育をする子どもたちも増えているので、環境の工夫、休息、活動のメリハリに留意しながら、教育時間と預かり保育時間を分離せずに考えていく。</p> <p>こども園としての役割の中で、長期休み中の利用者の増加により、職員の配置や保育内容の検討が今後必要になってくる。フリーや補助の職員にフォローしてもらいながら、職員の研修や有休の取得なども、働きやすい職場づくりを進めていく。</p> <p>担任と保護者の関係が築かれるよう日々尽力している。保護者による行事への参加や準備は非常に有難く思っている。子どもたち、保護者、職員にとって愛される園であることが、1番の願いであり今後も努力していきたい。</p> <p>行事では昨年度の運動会に続き、育ちの継続性を見て欲しいという願いから、クリスマス遊戯会も全体開催としたところ、保護者に実感していただけたのは良かった。また、新しい試みのサマーフェスティバルも好評で、親子共々楽しかったという感想が多かった。</p> <p>引き続き藤幼稚園の保育の充実を目指し、今回の自己評価で見られた課題を話し合いながら進めていきたい。</p>

5 学校関係者からの助言

<p>園内の雰囲気の中で子どもたちが落ち着いているのを感じる。一人ひとりが落ち着いているので、園全体が落ち着いていくのだと思う。それは祈りがあるからではないか。日々の祈りを通して、自然に身についていくものだと思う。幼児期から話を聞く習慣ができていることが、就学後の授業に取り組む姿勢に繋がっているのでは。話を聞くことが出来ないと、授業への理解を阻んでしまう。日々の生活の中で、子どもたちに培われていることを感じる。</p> <p>研修に対する職員の姿勢を感じる。これからは次の段階で、研修での学びを自分のものにして活かすことが出来るようになるとさらに良いと思う。</p> <p>そこから、個人の質の向上がより良い組織の運営に繋がる。園長・主任の不在時にも全職員が何事にも対応でき、自己の成長に繋がられていくと思う。</p> <p>預かり保育を利用する子どもたちが増えている。年齢が低くなるほど長時間保育の影響は大きい。14時以降の子どもが疲れてくる時間であるので、引き続き安全管理に留意し、保護者がお迎えに来るときに元気に帰っていけるように保育を進めて欲しい。</p> <p>全ての項目において職員の頑張りをを感じる。職員も心身ともに健康で、保育に向き合っていて欲しいと思います。</p>
--